復興 川内村 新しい農業への挑戦

川内村に「川内高原農産物栽培工場」〝（株）KiMiDoRi（キミドリ）〟が、新たな農業の場、また、村の復興のシンボルとして今年4月26日にオープンしました。

村では、川内村の主産業である農業を再生するため、最新鋭の設備と最先端の技術を備えた人工光型による完全密封型野菜工場を建設し、安全・安心・高品質な野菜の安定供給と風評払しょく、地域雇用の拡大に挑戦しています。

7月から、サラダに欠かせないフリルレタスなどの出荷が本格化。1日2，000株を収穫。業務用として都内に出荷し、8月からは一般家庭用に県内のスーパーでも販売を開始しています。

▲LEDを使用して、衛生的な環境で無農薬のレタスを栽培しています。

▲クリーンな環境でフリルレタスを栽培

水稲（すいとう）のいち早い復旧を

桜井（さくらい） 義晴（よしはる）さん
（南相馬市鹿島区）

両親・兄と共に畜産・農業に従事しています。現在は宮城県村田町の借上げ住宅で妻子と共に暮らし、義晴さんはほぼ毎日村田町と南相馬市を行き来しています。

震災で水田の3分の2が津波被害を受けました。被害を免れた水田も放射能の影響により作付が制限されているため畜産を広げ、親牛を30頭から約60頭に増やしました。震災前は兄が畜産をやり、私は主に水稲をやっていましたが、水稲が再開できるまでは、畜産で頑張っていこうと思っています。県や農協の方が「安全・安心なエサを使用している」という情報を発信してくれたこともあり、畜産の経営はだいぶ回復しました。

現在、水稲の方は、県と協力して、放射性物質の基準値を下回る米が生産できることを実証するための水田を設置しています。昨年の暮れから準備し、今年の春に田植えをしました。間もなく結果が出ます。作付制限が解除された時、すぐに水稲が再開できるよう迅速にほ場整備が進むことを期待しています。

他の作物に比べ、水稲については除染や吸収抑制対策など、やらなければならないことが、まだまだたくさんあると思います。ぜひ行政と協力して、1日も早い復旧を実現していきたいですね。

▲畜産に取り組む桜井さん

農地・農業用施設の復旧

東日本大震災により被災した農地や水路、ため池などの農業用施設の復旧を行いました。

被災直後は緊急的に津波被災農地の排水対策や海岸の仮締切など二次災害防止対策を最優先で取り組みました。

その後は、被災した農地や農業施設の復旧工事を進めています。津波被害の大きかった太平洋沿岸の農地については、田や畑の大区画化による整備を行いながら復旧する計画です。

掛樋（かけひ）の復旧（鏡石町岡（おか）の台（だい）地区）

鏡石町では、水路を橋のようにつないで下流へと農業用水を流す掛樋（用水路）が大地震により被災し、水を流すことができなくなりました。

稲作に必要不可欠な農業用水を確保するため、速やかに復旧工事を行い、昨年の田植えから用水を安定的に供給しています。

平成23年3月16日

復旧後

平成24年8月1日

押手神（おてがみ）ため池の復旧（新地町）

新地町では、津波被害のほかに、内陸部にあるため池も大地震により大きな被害を受けました。

水を貯めるための堤（つつみ）の上部に大きなひび割れが発生し、決壊する恐れがあったため、応急対策としてため池の水を抜きました。

その後、ひび割れした部分を取り除き、改めて堤を盛り立てる復旧工事を進め、平成24年に完成しました。

平成23年3月12日

復旧後

平成24年2月2日

読者からのお便り 震災から2年半、復旧復興にまだまだ時間がかかると思いますが、みんなで力をあわせて、頑張らなくてはと思います。（郡山市 50代女性）

福島県の営農再開に向けて

県では、県復興計画の 12 の重点プロジェクトの一つに「農林水産業再生プロジェクト」を掲げています。

今回は、営農再開をした農家の皆さんや農地の復旧の様子、安全で安心な農作物を届けるための取り組みを中心にご紹介します。

両親はトマトのハウス栽培に長年取り組んできました。震災では津波の被害は受けなかったものの、一時避難により、育てていたトマトの苗は全て枯れてしまいました。帰還後、回復に向けて栽培を再開しました。

私は以前は自動車の整備士をしていましたが、「農業は、やればやるだけ成果が出る」という両親の話を聞き、農業に可能性を感じて、昨年10月、妻と共に就農しました。

両親はこれまで土を使った「土耕栽培」をしていましたが、安全・安心でかつ高収量のトマト生産を目指し、昨年から新たに、ヤシガラ培地を用いた養液栽培に挑戦しています。これは、土ではなくヤシガラで作られた培地に苗を植え、点滴チューブから水や養分を与える栽培法です。

今年は、県の補助を受け、このヤシガラ培地を用いた養液栽培の面積を拡大しました。

家族一丸となってトマト作りに励んだ結果、栽培面積が昨年は震災前の約50％、今年は約80％までに着々と回復しています。これからも家族で協力し、安全・安心でおいしいトマトを作り続けます。

▲トマトの養液栽培の根元

やりがいのある トマト生産に取り組む

▲仲野内さんご家族

仲野内（なかのうち） 勇作（ゆうさく）さん
（南相馬市原町区）

夏はトマトを中心に生産しています。震災前の栽培面積に戻すだけでなく、新しい栽培方法にもチャレンジしています。

福島県は広く、災害に対しての現状やその後の復旧状況についてはなかなか実感することが少なく、文字だけでも実感できません。6 月号で災害状況と復旧後の写真を見て具体的な状況がわかり、日々福島県も頑張っていることが感じられました。（伊達市 60 代女性）

読者からのお便り

今年も実施します！全量全袋検査

安全・安心なお米を届けるよ

今年も新米の季節がやってきました。肥料に工夫をこらした（カリ肥料による吸収抑制対策）水田などで丹精込めて栽培されたお米が刈り取られ、全量全袋検査を受けます。

本県では、昨年から、ベルトコンベア式検査器を導入し、県内で生産される全ての米について放射性物質を測定する全量全袋検査を実施し、放射性物質が基準値以下であることを確認して出荷しています。

▲全量全袋検査の様子

昨年県内で生産された米は、約160カ所の検査場で、約1，130万袋分の米を検査した結果、基準値を超えた米は71点（全体の0・0006％）でした。基準値を超えた米は流通しません。

検査結果は、全て「ふくしまの恵み安全対策協議会」のHPで公開しています。携帯電話やスマートフォンなどで、米袋に張られた検査済ラベルの二次元バーコードを読み込むことで確認することもできます。

今年も昨年に引き続いて全量全袋検査を行い、安全で安心、そして「おいしい」福島のお米を県内外の消費者の皆さんにお届けします。

ふくしまの恵み　検索

全量全袋検査

【バーコードラベル貼付】
検査前に、生産者情報が入ったバーコードラベルを貼る。

【スクリーニング検査】
出荷する米、自宅で食べる米、贈答用の米など「すべての米」を検査。
基準値を超えない米のみ合格。

【検査済ラベル貼付】
基準値以下の米に検査済みラベルを貼付。検査結果をシステムに登録し、公表。

知事メッセージ　農業の再生は福島の再生

福島県知事　佐藤雄平

甘く、ふっくらとしたお米、栄養満点の野菜、みずみずしい果物。福島の豊かな大地で育った農産物は、正に本県の宝です。

県では、農家の皆さんがふるさとで安心して営農を再開できるよう、また、若者が夢と希望を持って農業に取り組んでいけるよう、農地や農業用施設の復旧、新たな生産方式の導入支援など、力強い農業の実現に向けた様々な対策を行っております。

さらに、米の全量全袋検査を始め、生産・流通・消費の各段階で徹底した検査を行い、安全性をしっかりと確認しております。

おいしい福島の農産物を安心して味わっていただくため、引き続き農家の皆さんと共に全力を尽くしてまいります。